



周南たちばな学園 袋井市立三川小学校 学校だより

令和3年10月15日

三川っ子だより

No.9

学校評価(7月)アンケート実施結果

7月には、学校評価アンケートへ御協力いただき、ありがとうございました。8月には、児童、保護者、職員のアンケート結果を全職員で考察し、今後に向けての方向性について話し合いました。その結果等を学習部、生活部、特活部に分けて報告します。

また、11月にも同様に学校評価アンケートを実施し、令和4年度の教育課程に活かしていく予定ですので、御協力の程、よろしくお願いいたします。

生活部

(評価:1 はい 2 どちらかといえばはい 3 どちらかといえはいえ 4 いいえ)

児童アンケート結果				
	1	2	3	4
「わたし玉」をもっています。	75.9	16.8	1.3	2.0
友達の「わたし玉」を言うことができます。	66.9	21.6	6.8	4.7
3つのことを意識してあいさつをしています。 (相手を見る・相手に届く声・いい表情)	53.0	34.9	8.7	3.4
相手の気持ちを大切にしています。	73.2	22.1	0.7	4.0

職員アンケート結果				
	1	2	3	4
「わたし」らしさを「オンタイム評価」	0.0	50.0	50.0	0.0
個性や多様な考え方の受容	25.0	50.0	25.0	0.0
道徳教育の充実	0.0	81.8	18.2	0.0
いじめの根絶	25.0	41.7	33.3	0.0
合い言葉「誰かのために自分のために」	0.0	91.7	8.3	0.0
礼儀文化の構築	8.3	66.7	25.0	0.0

<成果>

- 昨年度から好きなことや得意なこと、前向きにがんばっていることなど自分の良さを「わたし玉」と表現してきました。「わたし玉」という言葉を意識する声掛けや機会を設けたことによる成果が表れてきています。
- 友だちの「わたし玉」が言えたり、相手の気持ちを大切にしたりする児童が87%であり、相手の良さに目を向けた生活ができるようになってきました。学校や家庭での承認や励ましの声掛けが、児童の自信につながったり、友達へのやさしい言動につながったりしています。

<課題>

△あいさつでは、3つのポイント(相手を見る・相手に届く声・いい表情)を意識したあいさつができると答えた児童は53%で約半数でした。学年が上がるにつれ、あいさつができると答えた児童が減少しているのが気になります。

<今後の取組>

- ・3つのポイント(相手を見る・相手に届く声・いい表情)を意識したあいさつができるように、通学班のリーダーに低学年の手本となるようにリーダーとしての心構えを生徒指導担当から話をしたり、全校児童にあいさつの意味を伝えたりすることを積極的に行います。
- ・職員は、『あいさつ＋一言』を心掛け、一日を過ごす意欲を高めたり、温かい雰囲気の中で安心感を与えたりしていけるように努めます。

学習部

(評価:1 はい 2 どちらかといえばはい 3 どちらかといえはいいえ 4 いいえ)

児童アンケート結果				
	1	2	3	4
授業の内容が分かります。	60.4	33.6	4.7	1.3
授業では自分自身で考えています。	59.9	32.7	6.8	0.7
学習することが楽しいです。	60.8	27.0	9.5	2.7

職員アンケート結果				
	1	2	3	4
「主体的・対話的で深い学び」の具現化	0.0	45.5	54.5	0.0
学ぶ側の視点に立った授業観	18.2	72.7	9.1	0.0
個別最適化された学び	18.2	54.5	27.3	0.0
適正な学習評価	9.1	90.9	0.0	0.0
実効性のある研修	27.3	54.5	18.2	0.0
指導方法の改善	0.0	81.8	18.2	0.0

<成果>

- タブレット端末等を授業の様々な場面で活用し、学習内容の理解や思考の整理に生かしてきたことが、児童の上位の数値に表れています。
- 「学習することが楽しい」の上位の数値が、昨年11月に行ったアンケート結果よりも上がっています。教師が児童に「やってみよう!」と思うような課題提示をしたり、「友だちに伝えたい」と思うような対話を促したりする授業を構想し、研修を重ねています。

<課題>

- △「学習することが楽しい」の数値は上がってきたが、学年が上がるにつれて学習内容が難しくなるためか、学習の楽しさを感じられない児童も増えています。
- △教師は日頃から自分ごととして児童が主体的に学ぶ授業改善に努めています。教師の上位数値が低いのは、より質の高い授業を目指しているからであり、さらなる向上を目指した辛口の評価を教師自身が行っていると思われます。

<今後の取組>

- ・多くの児童が学習する楽しさを実感するために、協働的に学ぶ機会を設定していきます。
- ・本校の研修の重点である「課題の意識化と個のまとめの表出」「対話による思考の深化」の2つの視点を軸に授業改善を進めていくために、互いに授業を参観し、児童の学びの姿で職員同士が語り合うことを積極的に行っていきます。

特活部

(評価:1 はい 2 どちらかといえばはい 3 どちらかといえはいいえ 4 いいえ)

児童アンケート結果				
	1	2	3	4
自分たちでよりよい学校や学級をつくるために活動しています。	59.7	34.2	3.4	2.7
健康や安全に気をつけて生活しています。	75.8	20.1	0.7	4.0
目標をもって運動しています。(休み時間も含める)	59.1	30.2	8.1	2.7

職員アンケート結果				
	1	2	3	4
自治的・自主的な生活の創造	8.3	58.3	33.3	0.0
誇りと責任の自覚	8.3	75.0	16.7	0.0
安心感のある居場所づくり	27.3	63.6	9.1	0.0
運動能力・体力・健康の増進	0.0	75.0	25.0	0.0
防災・防犯意識の向上	16.7	75.0	8.3	0.0
感染症からの防護	33.3	58.3	8.3	0.0

<成果>

- よりよい学級、学校をつくるための第一歩として、当番活動や委員会活動では、多くの児童が責任をもって役割を果たすことができていると感じています。
- 感染症対策が日常化し、安全に学校生活を送ることができている児童が多くみられます。教室内の換気に注意し、マスク着用や手洗いの指導してきた成果が出ています。

<課題>

- △係活動や委員会活動などで、創意工夫を考え、主体的に取り組むことを苦手とする児童が多くみられます。

<今後の取組>

- ・常時活動だけにとどまらず、創意工夫をしながら係活動や委員会活動に取り組む場の設定をしていきます。
- ・行事やクラスの活動に向け、児童が主体的に取り組めるようにしていくために友達との関わり合いを大切にしながら、必要なタイミングで話し合い活動を取り入れ、意欲を高めていくよう心掛けていきます。

保護者

保護者アンケートは、「新学期になってからの成長やがんばり」、「できるようになるとよいところ」をすべての方に記述式で、「本校の教育活動」については御意見等がある場合のみ記述をお願いしました。

(主なものを抜粋)

学年	「新学期になってからの成長やがんばり」について	「できるようになるとよいところ」について
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活に慣れ、楽しく学校に通っている。 ・進んで学校に行く準備ができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聞ける子になってほしい。 ・基本的な生活習慣を身につけてほしい。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、自分のことは自分でできるようになった。 ・友達のこと、自分のことについて話をするようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも諦めないでほしい。 ・成功体験を積み、自信をつけてほしい。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わり方を考えて行動できるようになり、友達を思いやることができるようになった。 ・係活動に意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで考えて行動できるようになってほしい。 ・興味のあることや得意なことだけでなく、苦手なことにも諦めず取り組んでほしい。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使って自主学習をする機会が増え、復習したり工夫して学習に取り組んだりしている。 ・自分で計画を立て行動できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちに寄り添える子になってほしい。 ・すぐに諦めず、前向きに考えるようになってほしい。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なこともあきらめずに挑戦している。 ・委員会の仕事を責任をもって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの状況に流されず、自分をしっかりもってほしい。 ・下級生の手本となる行動をしてほしい。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・上級生となり、下級生の面倒をよく見るようになった。 ・通学班リーダーとなり、責任をもって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めたことはやりきれぬ人になってほしい。 ・中学生に向けて自分で考えて行動できる人になってほしい。

「本校の教育活動について」

学校に対する意見や要望等では、以下のような好意的な御意見をいただくことができました。

- ・コロナ禍でも、さまざまな体験ができていることに感謝
- ・先生方が一人一人をよく見てくれて安心している
- ・これからも子どもたちと距離の近い教育活動を
- ・学校が好きになってよかった
- ・コロナ禍でもできる限りの行事を

また、要望として出てきたことに対して以下のように回答いたします。

要望等	学校回答
連絡事項を分かりやすく伝えてほしい	低学年では、より丁寧にできるだけ早く必要な連絡をしていきます。
引き渡し訓練の方法の検討を	今年度の反省を踏まえ、シミュレーションし、来年度に向けて、計画・実施していきます。
登下校時の地域でのあいさつの活性化を	通学班リーダーを中心に学校で行っているあいさつの輪が広がるようにしていきます。

学校での様子を知りたい	学校だより、学年だより、本読みカードなどを使って伝わるように努めます。心配なことがある時は、いつでも御連絡ください。
白衣の使い回しが衛生面で心配なので、個人のものを使用したい	現状維持を基本としますが、気になる御家庭はエプロンを用意していただいても構いません。
タブレット端末の持ち帰りが不安	これまでのお家の方の御協力のおかげでスムーズに行えていると思います。お困りのことがありましたら担任まで御連絡ください。
下校時刻等マチコミで伝えてもらえないか	急な変更等はマチコミにて連絡します。学校のホームページに学校だより、下校時刻を掲載しているので御覧ください。
登下校中のアクシデントに対応するために、子どもたちが学校の電話番号等が載ったカードを持っているとよいのでは	ランドセルに常備している防災ハンドブックに学校の住所、電話番号が分かるようにします。

学校運営協議委員より

- ・コロナ禍の中、消毒、換気、密回避など授業以外のことで気を付けなければならないことが多く本当に大変だと思います。ありがとうございます。9月から読み聞かせができなかったため、子どもたちの元気な声を早く聞きたいなあと思っています。11月からの語るんジャー楽しみにしています。一日も早く昔のような生活になりますように。
- ・コロナウイルス感染症対策をしながらの学校生活は先生、子どもたちも大変だと思いますが、アンケート結果を見る限り、ある程度、充実した日々を送ることができているようで安心しました。2学期は、修学旅行、運動会など多くの行事がありますが、コロナウイルス感染者がこのまま減少したまま無事に子どもたちがいろいろな体験ができることを祈ります。

7月の段階でも保護者の方々は、子どもの成長に目を向け、できるようになったことを喜びとして記入してくださっています。学校では見られない子どもの姿も知ることができ、学校での会話を広げることができました。

また、できるようになるとよいことでは、保護者だからこそその願いも知ることができました。多くは「自立」や「自主性」を望んでいることも感じました。親は全て自分でできるということが自立であると思いがちですが、小学生の発達段階としては、一緒に行い、自信を持つようにし、だんだん手を離していくことが大切です。そして、本当の自立とは、自分の得意なことや苦手なことを理解し、困った時には、ヘルプが出せることだと言われていきますので、お子さんに寄り添い、その子があるがままに受け止めてあげてください。また、自主性については、学校の教育活動でも大切にしていることであるので、運動会等の行事でのお子さんの様子を観ていただくことや学校、学年だより、ホームページ等で取組について伝えていくようにしていきます。

そして、家庭、地域、学校で連携して、子どもを褒め、認める言葉がけを行うことで子どもたちの自己肯定感を高め、今の自分よりも少し頑張れる「わたしらしさ」を大切に育てていきたいと思えます。今後も御協力をよろしくお願いいたします。